

京都第一赤十字病院で上下部消化管内視鏡検査または内視鏡治療
を受けられた患者様・ご家族の皆様へ

大腸憩室出血に対する内視鏡的止血術の治療成績に関する
後ろ向き研究へのご協力をお願い

実施にあたり京都第一赤十字病院医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

今回、京都第一赤十字病院は、大腸憩室出血に対する内視鏡的止血術の治療成績に関する後ろ向き研究を実施いたします。そのため、過去に京都第一赤十字病院で大腸憩室出血に対して内視鏡検査・治療を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただいたり、通常の診療として行われている診断や治療の過程で得られるデータを調査させていただきたいと考えています。

研究の目的

血便の原因として、痔核出血を除いて最も頻度が高いのが大腸憩室からの出血です。しかし大腸憩室症には根治的治療法がなく、約30%の症例が再出血を繰り返すことから、安全かつ再出血率の低い止血法の確立が求められています。

内視鏡的止血法として従来はクリップを用いた方法が広く用いられていました。しかし本法だけでは再出血率が24%と高いため、近年結紮法による止血術を適宜併用することが報告されています。当院ではこれらの方法から患者さんごとに最も適切なものを選択して行ってきました。

本研究では、当院で過去に大腸憩室出血に対する内視鏡的止血を行った症例を対象として、止血法別の治療成績、再出血を起こしやすい患者さんの特徴など明らかにすることを目的としています。

研究の方法

- ・研究期間：研究承認日から2025年（令和7年）3月31日
- ・対象となる患者様について

京都第一赤十字病院消化器内科で2010年1月1日～2022年12月31日に大腸憩室出血と診断され、内視鏡検査を受けられた患者さんに本研究への参加をお願いしています。

- ・方法について

当院で保存されている過去のカルテ情報を参照して、下記の情報を取得させていただきます。取得する情報は、患者様の基本情報：年齢、性別、合併症、既往歴、現病歴、治療法、止血術後の経過などとなります。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧は可能です。ご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。

・試料・情報の保存および二次利用について

本研究に用いられる情報（診療記録、各種文書類および電子的記録）は、論文等の発表が行われてから10年保管し、適切に廃棄します。本研究において取得した情報は、研究代表者稲田裕の下、鍵のかかるロッカーに保管、責任をもって管理します。パソコンで管理する場合、ネットワークから遮断した状態で行います。

新たな研究を行う際にはあらためてその研究計画を医学倫理審査委員会で審査し承認を得ます。

研究組織

(実施責任者)	京都第一赤十字病院	消化器内科	稲田 裕
(実施担当者)	京都第一赤十字病院	消化器内科	奥山 祐右
	京都第一赤十字病院	消化器内科	中津川 善和
	京都第一赤十字病院	消化器内科	田中 信
	京都第一赤十字病院	消化器内科	黄 哲久

情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、令和7年3月31日までに下記連絡先までご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

本研究は、京都第一赤十字病院倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先:

京都第一赤十字病院 消化器内科

医長 稲田 裕

電話：075-561-1121（代）

研究責任者： 京都第一赤十字病院 消化器内科

医長 稲田 裕